九州・沖縄各県造園協会連絡協議会総会

北川会長を再選　経営改善の促進柱に

新年度事業計画等が決められた総会
＝鹿児島市のグリーンホテル錦生館で

九州・沖縄各県造園協会連絡協議会（北川博良会長、福岡県造園業協会長）は24日、鹿児島市のグリーンホテル錦生館で18年度通常総会を開き、会員各社の経営改善の促進などを柱とする新年度事業計画を決めたほか、規約改正に伴い九州沖縄各県造園協会連合会へ名称変更することなどを承認した。また、任期満了に伴う役員改選では北川会長を再選した。

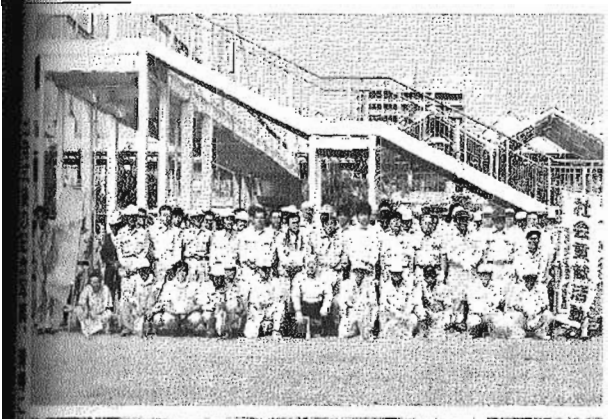
会では、北川会長を議長に選出し議案に入り、17年度事業・収支決算報告、18年度事業計画・収支予算案、規約改正などを審議した結果、執行部原案通りすべて可決承認した。任期満了に伴う役員改選では、会長に北川氏、副会長に久保和男氏（佐賀県造園建設業協会長）、山本規仁氏（長崎県造園建設業協会長）をそれぞれ選出した。

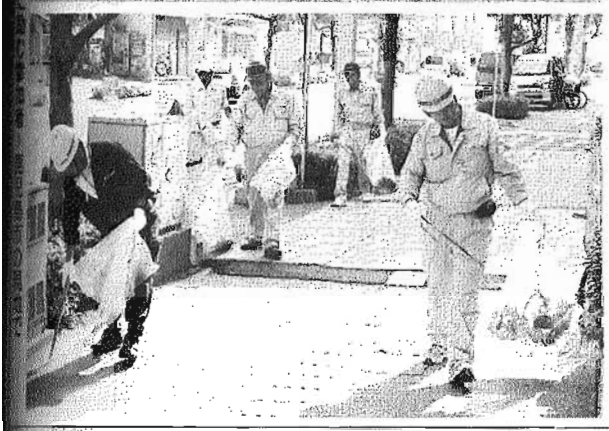
また、総会終了後には、鹿児島大学農学部生物環境学科の寺岡行雄助教授が「環境保全と森林・樹木の役割」と題し講演を行ったほか、青楓緑化㈱の岸野純一社長が「美しい沿道植生の効率的維持管理手法の検討」で事例を発表した。このうち、寺岡助教授は森林とは何か・現状は・森林の機能・環境問題と森林・地球温暖化への役割―について解説、森林の役割の重要性について訴えた。

新年度事業計画は、①緑化、景観、修景事業の促進②業界の近代化（講習会の開催など）③会員各社の経営改善促進④造園工事の確保拡大等―などを掲げている。

県、県建設業協会 鹿児島支部等がボランティア

幹線道路を清掃美化





県、県地域振興公社、鹿児島中央警察署、鹿児島市交通局、県建設業協会鹿児島支部（川畑敏彦会長）ボランティア協会（春田穣会長）は24日、鹿児島市の幹線道路で「道路ふれあい月間」におけるボランティアの道路美化作業を実施し、地域住民らから喜ばれた。

当日はドルフィンポート広場で出発式を開き、県鹿児島土木事務所の木下薩男次長兼道路建設課長が「きょうは道路を守り、きれいで快適なものとし、共生・協働の活力ある郷土づくりの機運を高める、よい機会だ。積極的な参加に感謝する」とともに、美化活動が恒例となることを祈念する」と挨拶。また、川畑支部長も「協会では社会貢献活動に力を入れており、各会員がさまざまな形で各地で奉仕活動を行っている。きょうは暑い中で大変だが、事故のないように清掃に励んでほしい」と呼び掛けた。

続いて、鹿児島中央停車場線（ドルフィンポート～鹿児島中央駅）、鹿児島加世田線（高見馬場～騎射場）、鴨池港下荒田線（ダイエー鴨池店～鴨池港）に分かれて、清掃を開始。道路の両側を2組で歩きながら、ポイ捨てされた空き缶やたばこの吸い殻などを拾い、たまったごみは回収車に積み込み、処分場へ運搬した。

かごしま道路ボランティア協会

共生・共働の地域づくりへ

また、郡元鹿児島港線の清掃には、県土木部の職員とともに、かごしま道路ボランティア協会の会員約40人が参加した。

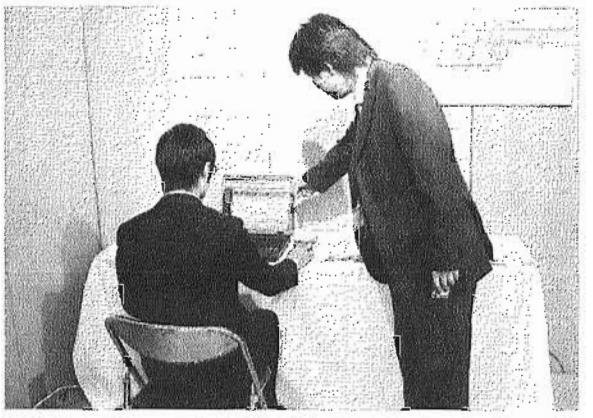
組織する全建クラブを母体とし、昨年11月に発足した任意団体。8月の道路ふれあい月間中、加治木や伊集院、鹿屋でも道路美化作業を行った。

と合わせて70人強が参加している。

協会の上原尚明事務局幹事は、「実際に清掃してみると、思った以上のごみが捨てられているのに驚きました。これからも共生・協働の地域づくりに貢献し、道路愛護精神の普及に取り組みたい」と語った。

レイメイ藤井がフェア

最新セキュリティー紹介



入室管理の説明を受ける来場者＝鹿児島市のオロシティセントロメッセで

㈱レイメイ藤井（藤井邦宏社長）は24日、鹿児島市のオロシティセントロメッセで「ソリューションフェア2006」を開き、最新のセキュリティーオフィスを紹介し、来場者の注目を集めていた。

企業を取り巻く環境の必須課題となりつつあるセキュリティー対策。今フェアではトータルセキュリティーシステムをバーチャルオフィスで展示した。そこでは、①入室管理②パソコン認証③プリント認証④文書・物品管理の四つのシステムをカード1枚で制御。もちろん、使用者の制限や企業活動に応じた多様な管理・運営にも対応している。

このほか、フェアでは各メーカー自慢のオフィス機器も多数展示し、来場者が次々に訪れていた。

鹿児島建設新聞が県へ義援金

被災者の生活の力に

真下部長に義援金を手渡す大迫社長（右）＝鹿児島市の県庁土木部長室で

㈱鹿児島建設新聞（大迫純隆社長）と同社互助会は24日、鹿児島市の県庁を訪れ、7月の県北部豪雨災害に対する義援金を贈った。

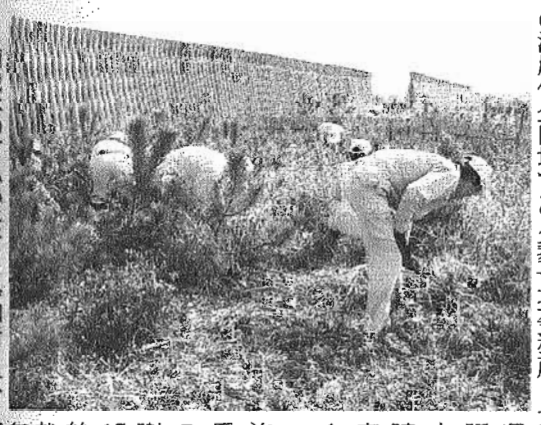
土木部長室で行われた贈呈には、大迫社長と向江泰徳専務取締役が出席。「苦悩の日々を送る被災者の力になりたい！」と社員全員の気持ちを込め、義援金が大迫社長から真下和彦県土木部長に手渡された。

真下部長は、「各被災現場も視察したが、想像以上に厳しい災害だったと感じた。まだまだ困っている人はたくさんいる。この善意が、少しでも早く被災者の手に届くようにしたい」と感謝の意を述べた。

義援金は、県社会福祉課や関係団体等で構成する義援金配分委員会で、具体的な配分基準や配分方法を協議決定し、被災者に配分される。

大隅耕地事務所がボランティア

暴風林を撫育作業



植栽木の下払いをする参加者＝大崎町の菱田海岸で

県大隅耕地事務所（吉村博人所長）は24日、曽於地域土地改良施設愛護運動の一環として大崎町の海岸保全区域である菱田海岸で、暴風林植栽木の下払いなどの撫育作業をボランティアで行った。参加したのは、県大隅耕地事務所、大崎町役場、県土改連大隅事務所、大崎町内の建設業関係者からの約100人。

参加者を前に吉村所長が「多数の参加に感謝します。15年度から始まった植栽作業で現在は30haまでなりました。暴風林での作業ですので体調に配慮してお願いします」と激励した後、作業などの説明を受けた後、作業に入った。

間伐材を利用した丸太防風工の後ろにある竹簀（たけす）柵工を施した中に、植栽された松食い虫に強い抵抗性クロマツやアキグミ、トベラの苗木（約高さ50㎝）が傷つかないようにかまなどを使って手作業で生い茂った草を取り除いた。除草した草はそのまま肥料にした。

曳家（ひきや）工事・解体工事
土木一式工事・建築一式工事
株式会社 大城
鹿児島知事許可（特－17）第4087号
鹿児島市宇宿町1955-1　☎(099)275-3600(代)
FAX(099)275-3601番